

着任挨拶

前川 雅彦 岡山大学資源植物科学研究所 教授
客員教授（任期：2012年12月1日～2013年3月31日）

我々は作物自体の持つ作物力（さくもつちから）をどれだけ理解しているのでしょうか？作物力を明らかにすることができれば農業への応用展開もかわってくるのが期待されます。現在の農業はエネルギー多投入で成り立っていて、そのことが地球環境に影響を及ぼしていることも事実です。私は、ケニア由来のイネ野生種オリザ・ロンギスタミナータを利用できる機会がありました。以来19年間この野生種と栽培イネの交雑後代に向き合ってきました。オリザ・ロンギスタミナータは5千分の1のワグナーポットで育てても、温室では3mぐらいの大きな生育を示します。この大きさに何か重要なものが隠されているものと思い、材料を作ってきました。今回、当センターの客員教授に就任することになり、当センターに蓄積されている有用な種々の知識を勉強させていただくとともに、こちらからの情報とあわせて国際協力できる材料育成の基礎を確立したいと考えております。



略歴 1954年2月福井県生まれ。北海道大学大学院農学研究科博士課程修了後、同大学農学部附属農場に助手として勤務。1995年に岡山大学資源生物科学研究所に転任し、2004年に教授、2010年から現職。

離任挨拶

前多 敬一郎 プロジェクト開発研究領域 教授

2010年4月に着任し、2年3ヶ月でセンターを去ることになりました。短い間でしたが、農学部の海外実地研修を軸として、タイやカンボジアとの国際協力を進められました。これがきっかけとなり、いくつかの共同研究が生まれました。カンボジア王立農業大学と進めているカンボジア初の本格的国産牛乳に関する活動は、タイのカセサート大学の全面的な協力を得ながら、すべて現地ですべてのひとづくりが実施されています。これは偶然にもカンボジアとタイに教え子がいたおかげで、大学におけるひとづくりの重要性を実感しています。ひとづくりに必要なのは、お金ではなく、まず経験と知恵です。本センターが「大学」の農学国際協力の中心として、大学院教育をはじめとした高等教育により、国際的な指導者養成に力を尽くされんことを願っています。私も、東京大学の獣医学分野で、国際的なひとづくりに励むことにします。最後に、センターの益々の発展を願ってやみません。



略歴 1955年生まれ。1980年東京大学農学部畜産獣医学科卒業、獣医師免許取得。1985年東京大学大学院農学系研究科博士課程を修了（農学博士取得）、名古屋大学農学部助手に採用される。同講師（留学生担当）、助教授、教授（生殖科学研究分野）を経て、2010年4月より農学国際教育協力研究センタープロジェクト開発研究領域教授に就任。2012年7月から東京大学大学院農学生命科学研究科教授（獣医学専攻動物育種繁殖学教室）。

伊藤 圭介 農学知的支援ネットワーク(JISNAS)事務局次長/国際交流協力推進本部国際企画室特任准教授
（任期：2010年10月1日～2012年9月30日）

2010年10月より2年の間、ICCAEが事務局を務める農学知的支援ネットワーク(JISNAS)の運営を支援させて頂きました。慣れない大学での業務に戸惑うことも多々ありましたが、JISNASの運営委員、事務局員、さらに会員の皆様の国際協力に対する熱い思いに支えられ、任務を全うすることができました。大学組織としての国際協力サポート体制がまだ十分でない中、個々人が途上国の貧困削減に資する様々な農学研究活動を行っているのを見聞き、政府開発援助の実施を担うJICAの職員として非常にありがたく、また心強く感じています。

2012年10月よりJICAに復職し、現在は南米のパラグアイに赴任しております。パラグアイでは農村部における貧富の格差が大きな社会問題となっており、JICAは小農の自立化を目指した支援を行っています。

これからも大学関係者の皆様からのより一層の支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

略歴 1971年12月名古屋市生まれ。北海道大学農学部農業経済学科卒業後、JICAに入団。JICAでは、ボリビア事務所、農村開発部、企画部などに所属。ボリビアでは、事務所農業・農村開発分野を担当後、現地の大学院（NUR大学）に留学し修士号「持続可能な開発」を修得。2010年10月より国際交流協力推進本部国際企画室特任准教授および農学知的支援ネットワーク（JISNAS）事務局次長に就任。2012年10月よりJICAに復職、パラグアイ事務所へ赴任。

